

花炭づくり・木工体験

11月11日(日)、本学の敷地内にある松 木日向緑地にて、南大沢小学校と柏木小学 校の児童と保護者を迎え、「花炭づくり・木工体 験 |を行いました。

松木日向緑地プログラムからは、3年目(リーダー)の学生が2人、2年目(サポーター)の学生が1人、1年目の学生が7人の合計10人が参加しました。

·活動内容

まずは、前回の活動の際に、あらかじめ竹を詰めておいた炭焼き窯に火入れをするところから始めました。炭は、竹を火で直接燃やすのではなく、熱を長時間当て続けることで作られます。煙突からは、最初は真っ白な煙が噴き出しますが、温度が上がるにつれて煙の色が青色に変化し、その煙が透明に変われば完成とのこと。少なくても半日など、かなり時間のかかる作業であるため、炭が出来上がるまでの間、窯の上に芋を乗せて焼き芋をしたり、竹の間伐や緑地の資源を活かした木工体験を行いました。

①竹の間伐と切った竹を使ったペン立てづくり、竹の四つ割体験、②つるを使ったリースづくり、③枝のキーホルダーづくり、などのグループに分かれて、子どもたちと保護者の方が体験をするサポートを大学生が行ないました。

子どもたちは、とても意欲的に取り組んでいました。大学生は、自分たちも一緒に楽しみながら、初めてノコギリを使う子どもたちに対して、アドバイスをしながらも最後まで自分の力でできるよ



子どもたちが枝のキーホルダーをつくる サポートをしている学生

うに見守っている姿が印象的でした。なかなか他 の子どもたちと馴染めない子どもに対しても、じっ くりと関わり、その子がしたいことを主体的に取り 組めるように寄り添うなど、一人ひとりに合わせた サポートを行なっていました。

・参加した学生の感想

- 子どもならではの発想力を見ることができ、と ても刺激的だった。
- 小学生といっても、低学年と高学年では興味やできることに違いがある。今回は、以前実施した時よりも提供するメニューを増やすことができたため、そうした現状に対応できる形で各自が楽しい時間を過ごせたのは良かった。
- 最後の感想発表の際に、「普段経験できない経験ができて良かった」という声があったので、小学生にとっても貴重な経験ができたのだと実感した。
- キリで穴を開ける時やノコギリで竹を切る時など、少し辛そうでも見守ってみるなど、子ども自身の達成感を考えて動くことができたと思う。
- 人見知りの子や落ち着きのない子など、様々な性格の子どもがいて、上手く対応できないこともあったが、その時は、小学校の方にサポートしていただき、今日の活動が様々な人に支えられており、補完しあっていることを実感した。
- 今後も「教える」という場面が増えてくると思うが、安全に配慮しつつ、適切な方法を示していく能力を身に付けていきたい。

学生たちは、楽しんでもらうだけでなく、この活動の意味を伝えたり、お客さんとしての参加ではなく、子どもたちの主体的な学びや成長も意識して取り組んでいたようです。最後には、出来上がった焼き芋と保護者の方が作ってくださった豚汁を全員で美味しくいただきました。

「サル山水合戦」に続き、子どもたちから大学生、保護者の方、もう少し年配の遊学会の方まで、あらゆる世代の人が松木日向緑地に集い、緑地の資源を活かして交流する良い機会となりました。

地域ボランティアプログラム① 松木日向緑地プログラム

「花炭づくり・ 木工体験」

2018/11/11

報告



炭焼き窯に火入れをしている様子



出来上がった花炭



竹の間伐体験のサポート



最後に全員で集合写真